

# 令和5年度 はじめての人（入門レベル）のための日本語教室 報告書（概要）

## 1. 事業概要

### (1)趣旨

市内の日本語教室で学ぶ学習者数は延べ327人（令和5年4月1日現在）で、この数は平成29年度堺市外国人市民意識調査で「日本語学習を必要としない」と答えた50.9%の外国人市民を除いても約3.9%にとどまる。このため、外国人市民の日本語学習の需要を掘り起こして地域の日本語教室につなぐことが必要であると考え、平成25年度より市主催で「はじめての人（入門レベル）のための日本語教室」を実施し、本教室で学習を終えた外国人市民を地域の日本語教室につなぐ形で事業を実施している。

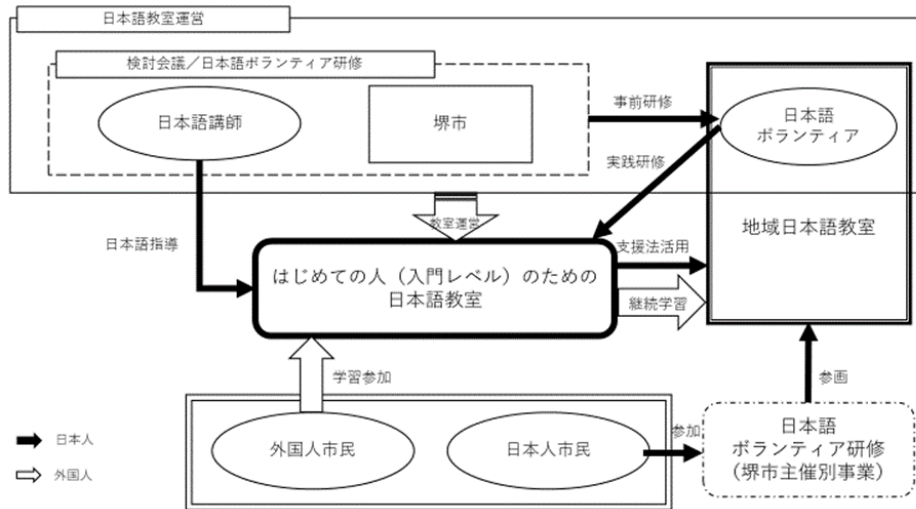
同時にこの場を市内で活動する日本語ボランティアが1対複数での日本語学習支援法を習得する研修の場とするとともに、ボランティアどうしの横のつながりやプロの日本語教師とボランティアのつながり、行政とボランティアの顔の見える関係づくりの場としても活用する。

### (2)実施スケジュール

検討会議を開催して昨年度事業の振り返り及び今年度事業の実施方法等について検討した。また、日本語ボランティア実践研修参加者（アシスタント活動者）の増加及び本教室で使用している教材「つながるにほんご」やこれを活用した学習支援法の普及を目的に「日本語ボランティア実践研修」に先駆けて、「日本語ボランティアスキルアップ研修」を実施した。すべての事業終了後に総括を行った。

|        |                          |
|--------|--------------------------|
| 8月     | 検討会議                     |
| 8月     | 日本語ボランティアスキルアップ研修        |
| 9月     | 日本語ボランティア実践研修 講義         |
| 9月～11月 | 日本語教室、及び日本語ボランティア実践研修 実践 |
| 12月    | 総括会議                     |

### (3)事業スキーム



## 2. 実施実績

### <日本語教室>

目的：・入門レベルの日本語能力の人が地域の人と人間関係を構築できるようになる。  
 ・入門レベルの日本語能力の人が地域社会に踏み出せるようになる。

開講日時：令和5年9月22日（金）～11月17日（金）

毎週火曜・金曜 14:00～16:00（全15回）

授業内容：・自己表現のための日本語表現及びそれに伴う文法項目の習得

・習得した日本語表現を活用した会話練習（実践）

・「駅での会話」「病院での会話」など特定の場面での会話練習

開講場所：堺市立多文化交流プラザ・さかい 会議室（大）

受講者数：17人（中国7人、ベトナム3人、アメリカ2人、韓国2人、オーストラリア1人、日本1人、ペルー1人）

#### <日本語ボランティア実践研修>

目的：・入門レベルの学習者への話し方や接し方、学習支援の方法を学ぶ。  
・マスターテキストアプローチによる学習支援や場面会話、対話型活動の方法を学び、1対複数での日本語学習支援法を習得する。

開講日時：<a. 事前研修>

令和5年9月5日（火）、令和5年9月12日（火）14:00～16:30（全2回）

<b. 実践研修～授業にアシスタントとして従事～>

令和5年9月26日（金）～令和5年11月17日（金）

毎週火曜・金曜のうち、指定された4～8日

13:50～16:20（打ち合わせ・振り返りの時間を含む）

（火曜日は6人程度、金曜日は4人程度が従事したが、原則として、金曜日の従事者は、同一週の火曜日に従事した者の中から4人程度を従事者として指定した）

研修内容：・入門レベルの日本語学習者に対する話し方や接し方

・マスターテキストアプローチによる学習支援法

・場面会話及び対話型活動の進め方

開講場所：堺市立多文化交流プラザ・さかい

受講者数：13人（市内日本語教室等で活動している日本語ボランティア）

### 3. 成果と課題

#### (1)成果

まず、昨年度課題としてあがっていた「アシスタント応募者が少ない」、「場面会話のロールプレイの意義がアシスタントに伝わっていない」という二点について、まず、前者については、事前研修の時間の短縮及び参加要件の緩和により7名の新規アシスタントを呼び込むことができた。また、後者については、事前研修での講師の実演やより詳しい説明、授業実践時における講師からのアドバイスなどにより、その意義を理解することができたと見え、最終アンケートではロールプレイに対して肯定的な意見が多く出された。

次に、Can doの活用について、昨年度よりその日のCan do（目標）の共有から授業を開始し、終了時に到達度を学習者に確認させるという流れをとっている。昨年度既にこの成果として教室に関わる全員が一つの目標の達成に向けて活動を進められるようになった点をあげたが、今年度はさらに修了時にこの教室で学んだ内容を振り返る学習者が数名おり、目標の明確化から到達の確認という流れが、学習内容の記憶にも効果をもたらしたと考えられる。来年度以降もこの流れを継続したい。

#### (2)課題

まず、教材「つながるにほんご」の使い方や活動の狙い等にかかる学習者への説明について、マスターテキストアプローチを採用している本教材は、一般に広く使われている文型積み上げ式のアプローチとは練習方法やその狙いが異なるが、今年度までは授業を受けながらそのやり方に慣れてもらってきた。しかし、15回という短い回数の中で効果的に日本語を習得してもらうには、はじめから活動の狙いが分かり、それに取り組めることが望ましい。来年度は、授業の初回到教材の使い方や活動の狙い等を伝えることを検討したい。

次に、トピック会話について、アシスタントの最終アンケートでは、この活動に対しておおむね肯定的な意見が出されたが、同時に学習者とのおしゃべりの方法を悩む声も聞かれた。所属教室での活動が文法の指導や練習が中心になっている場合には、自己開示や自分自身を表現することを求められるトピック会話に戸惑いを感じる人がいてもおかしくない。トピック会話の具体的な方法に加えて自己開示や自分を表現するための研修を内容として取り入れることを検討したい。

最後に、火曜日の教室型レッスンでのアシスタント活動について、今年度は一定して学習者が多く、金曜日のグループ型レッスンのみならず火曜日の教室型レッスンもほぼ全員のアシスタントが1対複数で支援することとなった。しかし、多くのアシスタントが1対1で練習をしてしまい、それ以外の人を置き去りにしてしまう姿が見受けられた。1対複数での交流活動に加え、1対複数での練習方法についてもこの機会に学んでもらえるよう検討していきたい。